

# 安全で良食味な米の生産・販売を通じ 生物多様性の保全に貢献

— 生物多様性保全機能 —

（株）<sup>りゅう ひとみ</sup>龍の瞳



商標登録米の収穫風景  
(飛騨地域等の岐阜県内契約農家が栽培)

2000年（平成12年）、現在の（株）龍の瞳社長の新品種「いのちの言（いち）」発見・命名を契機に、商標登録（「龍の瞳®」）を行い、減農薬栽培導入による安全で良食味にこだわった高品質米の生産・販売を行っている。

商標登録米は、同社と契約した県内農家が同社栽培マニュアルを遵守し、当該新品種を用いた農薬を極力使わない方法により栽培し同社検査に合格・認証した米を販売しており、約120戸の契約農家の水田では、栽培を通じて多種多様な生物が豊かな生態系を形成している。



岐阜県下呂市



「龍の瞳®」のお米  
(粒の大きさはコシヒカリの約1.5倍)

## 〔水質浄化、有機性廃棄物分解〕

完熟たい肥の散布や草が生えたら人力で取るなど農薬を極力使わない栽培を導入することにより、水中や土の中の微生物の多様性が高まり、有機物を分解し窒素成分が水稻に再び養分として吸収される働きや水田から窒素分を取り除く働き（脱窒）を活性させ、水稻の健全な生育と水質の浄化に貢献している。

## 〔生物多様性の保全〕

契約農家の水田では、たい肥に含まれる有機物が餌となり、微生物の働きが活性することから始まる生きものたちの食物連鎖により、土壌動物のイトミミズや水生動物の豊年エビ、これを餌にするドジョウ、カエル類、トンボ類などが増え、さらにこれを餌にするカモ類等水鳥もやってくるなど、「龍の瞳®」ブランドの生産・販売を通じ、生物多様性の保全に貢献している。



種もみ消毒「温湯（おんとう）消毒」



田植後、豊かな田んぼの象徴「豊年エビ」が発生



契約水田に立ち寄るカルガモ（5月）



手押し除草機による除草



カメムシ侵入防止対策で畦畔にハーブ（ミント）を移植



イネに登って羽化するトンボ類（6月）



東海農政局の  
←当該ウェブサイトはこちら

東海3

《 龍の瞳HP 》

<http://www.ryunohitomi.co.jp/>

令和4年3月更新